

平成 29 年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	総合型地域スポーツクラブ自立支援事業	【 1】																														
申請団体	あそべる大沼クラブ																															
事業目的等	<p>目的</p> <p>地域住民の誰でもが気軽にスポーツに親しめる環境を提供するために、「あそべる」「まなべる」「よこべる」という3つのキーワードの発想の元に子どもから大人、高齢者、障害者までもがスポーツ・文化・芸術を気軽にあそべるクラブ、地域文化・環境・健康づくり、ライフスタイルをまなべるクラブ、交流を通して地域活性化、住みよい町、仲間と笑顔でよこべるクラブという理念が生かされた、地域社会を創造するクラブづくりができ、大野中地域の新しいコミュニティの再構築が期待できる。</p> <p>内容</p> <p>活動種目教室を8教室開催しています。その内訳は、レクリエーション吹矢、ビーチボール、リズム体操、軽体操、ノルディックウォーキング、バレーボール、ファミリーバドミントン、パドルテニス</p>																															
交付決定日	平成 29 年 4 月 7 日																															
交付決定金額	¥600,000 円（全体事業費：決算額 ¥1,051,205 円）																															
団体実績報告	<p>事業実績</p> <p>開催教室</p> <table border="1"> <tr> <td>レクリエーション吹矢</td> <td>22 回</td> <td>115 人</td> <td>バレーボール</td> <td>22 回</td> <td>375 人</td> </tr> <tr> <td>ビーチボール</td> <td>35 回</td> <td>914 人</td> <td>ファミリーバドミントン</td> <td>35 回</td> <td>885 人</td> </tr> <tr> <td>リズム体操</td> <td>25 回</td> <td>539 人</td> <td>パドルテニス</td> <td>22 回</td> <td>317 人</td> </tr> <tr> <td>軽体操</td> <td>23 回</td> <td>258 人</td> <td>各種イベント</td> <td>6 回</td> <td>960 人</td> </tr> <tr> <td>ノルディックウォーキング</td> <td>45 回</td> <td>854 人</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>その他、クラブ広報誌の発行（100 部/月）、ホームページ開設、運営</p> <p>自己評価</p> <p>参加者それぞれが自分自身の健康と真剣に向き合い、維持していくために、気軽にスポーツに取り組み楽しむ姿を見ると、とても良い環境づくりが出来た。今後は、活動地域として大野台地区、古淵地区にも広げていきたい。</p>		レクリエーション吹矢	22 回	115 人	バレーボール	22 回	375 人	ビーチボール	35 回	914 人	ファミリーバドミントン	35 回	885 人	リズム体操	25 回	539 人	パドルテニス	22 回	317 人	軽体操	23 回	258 人	各種イベント	6 回	960 人	ノルディックウォーキング	45 回	854 人			
レクリエーション吹矢	22 回	115 人	バレーボール	22 回	375 人																											
ビーチボール	35 回	914 人	ファミリーバドミントン	35 回	885 人																											
リズム体操	25 回	539 人	パドルテニス	22 回	317 人																											
軽体操	23 回	258 人	各種イベント	6 回	960 人																											
ノルディックウォーキング	45 回	854 人																														
市評価	<p>気軽に参加できて、体を動かしながら楽しめる機会が身近な場所にあることは、ひきこもりがちになる高齢者や、遊び場が少なくなった子どもたちにとって、大変貴重な活動となっている。また、参加者の世代間交流や顔見知りになることで、地域住民のつながりが強まることなども期待できる。今後は、大野台地区、古淵地区などに範囲を広げた活動を期待する。</p>																															
備考																																

平成 29 年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	地域の触れ合いと認知症ケア事業	【 2】
申請団体	ふれあいオレンジカフェ鶴野森	
事業目的等	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民が楽しく会話やゲーム、物作り等で住民交流を図り、鬱・閉じこもり予防につなげる。 ● 地域住民が自分の認知症発症遅延運動と認知症の症状を理解し、声かけなどの対応を学ぶ。 ● 認知症患者とその家族及び鬱・閉じこもり患者をケアすることで、相互扶助の精神を養う。 <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月 2 回グリーンハイツ集会所で開催して、談話・ゲーム・運動で認知症発症の進行を遅らせる。 ● 毎月 1 回以上講師を招いて認知症予防運動・講習会を開催し、認知症予防・ケアの知識を高める。 ● 年間数回イベント及び講師を招いて、地域住民へ認知症予防活動と交流の輪を広げる。 	
交付決定日	平成 29 年 4 月 7 日	
交付決定金額	¥165,000 円 (全体事業費：決算額 ¥275,000 円)	
団体実績報告	<p>事業実績</p> <p>年間 27 回開催した。 参加者 650 名</p> <p>自己評価</p> <p>物作り、介護の話、音楽療法の認知症予防等で新しい参加者が増え、地域の交流が図られた。 通常から参加者が多数あった。</p>	
市評価	<p>外出の機会が減り、引きこもりがちになる高齢者を対象とした本事業は、これまでの継続した活動によって、認知症についての理解を深めるだけでなく、地域のつながりや絆を深めることにも大きく貢献している。</p> <p>今後も、高齢者だけでなく、様々な世代の参加者が増えるような呼びかけや活動内容の充実を図られたい。</p>	
備考		

平成 29 年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	大野中地区自治会連合会ホームページ運営事業	【 3】
申請団体	大野中地区自治会連合会	
事業目的等	<p>目的</p> <p>ホームページを活用した自治会行事の周知、自治会活動の透明性の確保、役員活動の負担軽減を図り、特に若い世代を中心とした自治会加入率の向上さらには、役職への取り込みを目的とする。</p> <p>内容</p> <p>クラウドサービスを利用したホームページの運営を行う。自治会員及び大野中地区内外の住民に対して大野中地区のイベントやトピックスなどの情報発信を行う。また、自治会連合会のグループウェアとして利活用を進め、自治会長会議等のスケジュール共有と通知、会議資料や結果報告のダウンロード提供、提出物管理、加入希望者からの申込受けなどを行う。</p> <p>各自治会は、1台ずつ貸与しているタブレットを用いてホームページを利用する。また、単位自治会間及び単位自治会と事務局間の各種連絡もタブレットを用いて行うことで、現役世代の自治会長の負担を軽減する。</p>	
交付決定日	平成 29 年 4 月 7 日	
交付決定金額	¥480,000 円 (全体事業費：決算額 ¥480,912 円)	
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大野中地区自治会連合会のホームページを活用し、地区のイベントや単位自治会の活動等の情報を随時発信した。 ● 自治会長会議等のスケジュール共有と通知、会議資料や結果報告のダウンロード提供等を行った。 ● 単位自治会間及び単位自治会と事務局間の各種連絡を、単位自治会に 1 台ずつ貸与したタブレットを通じて行った。 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的としていた活動の透明性や役員の負担軽減、利便性の向上は達せられた。 ● 単位自治会からの投稿は徐々に増えつつあるが、今後も積極的な投稿を呼びかけ、地区内外への情報発信を進めていき、自治会加入率の向上を目指したい。 	
市評価	<p>ホームページの開設目的である活動の透明性確保、自治会長の負担軽減、利便性の向上の面では、引き続き一定の成果を挙げている。単位自治会によるコンテンツの更新などを更なる利用の促進を図るために、今後は、自治会間の IT リテラシーやスキルの格差を縮める対策を進めて欲しい。</p>	
備考		

平成 29 年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	「ご近所防災・みんなで防災」事業	【 4】
申請団体	若沼自治会	
事業目的等	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎日の生活の中に、「生活防災」「ご近所防災」意識を浸透させていく。 ● 大震災発生時には行政の支援は期待できず、頼りになるのは「ご近所、近隣の力」であることを意識づけていく。 <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全自治会員に「支援隊だより」等により、本事業の背景、目的を周知する。 ● 平易で、一目で分かる「みんなで防災」小冊子を作成する。 ● 災害時に活用範囲の広い日本手拭に、「近所の絆」の大切さを印刷し作成する。 ● 10月頃に上記冊子と手拭を配付し、11月19日の大沼小学校での防災訓練時に日本手拭で鉢巻をしての参加を呼びかけていく。 ● 今後とも、あらゆる機会を通じて、「生活防災」「ご近所防災」の重要性を訴えていく。 	
交付決定日	平成 29 年 6 月 9 日	
交付決定金額	¥352,000 円 (全体事業費：決算額 ¥352,680 円)	
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 9月16日、小冊子「みんなで防災」、手拭を全戸に配付 ● 支援隊だより No.4 にて全戸から募集した「ご近所防災」標語 9 首を全戸に回覧 ● 12月3日実施の自主防災訓練時に配付した手拭を活用した。 <p>自己評価</p> <p>防災小冊子、手拭の全戸配布で、「ご近所防災」を印象づけ、更に標語の募集と防災情報を継続的に発信することで、「ご近所防災」の大切さを浸透することができた。</p>	
市評価	<p>災害時の自助・共助の必要性が小冊子と手拭を用いて簡明に伝えられている。また、「支援隊だより」による継続的な広報も、災害に対する備えの必要性をわかりやすく発信するものとして高く評価できる。</p> <p>今後も地域の防災意識の向上が図られるよう、より多くの住民参加を促す工夫が期待される。</p>	
備考		

平成 29 年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	子ども食堂と学習支援（あんちょコミックス）	【 5】														
申請団体	あんちょコミックス															
事業目的等	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもだけでなく、親や地域の人たちが気兼ねなく立ち寄れる居場所づくり ● 子どもたちの学習意欲を向上させて、心豊かな人に育む <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 親が帰宅するまでの安心で安全な居場所づくり ● 食事の提供（孤食の子どもの支援） ● 夕食後の学習支援（宿題や学習の補助） ● 参加者の交流や仲間づくりを通して、ふれあいの大切さを学ぶ ● 毎月 1 回実施（H 2 9 年 1 1 月～H 3 0 年 3 月まで） 															
交付決定日	平成 29 年 10 月 13 日															
交付決定金額	¥100,000 円（全体事業費：決算額 ¥100,921 円）															
団体実績報告	<p>事業実績</p> <p>会場：大野中公民館 調理実習室、中会議室</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11/16（木）</td> <td>43 名</td> </tr> <tr> <td>12/14（木）</td> <td>23 名</td> </tr> <tr> <td>1/17（木）</td> <td>42 名</td> </tr> <tr> <td>2/14（木）</td> <td>48 名</td> </tr> <tr> <td>3/15（木）</td> <td>56 名</td> </tr> <tr> <td>延べ</td> <td>212 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>自己評価</p> <p>子ども食堂「あんちょコミックス」を開設することにより、子どもたちは地域の一員であり、地域で見守られているという「居場所」づくりとなっている。</p>		開催日	参加者数	11/16（木）	43 名	12/14（木）	23 名	1/17（木）	42 名	2/14（木）	48 名	3/15（木）	56 名	延べ	212 名
開催日	参加者数															
11/16（木）	43 名															
12/14（木）	23 名															
1/17（木）	42 名															
2/14（木）	48 名															
3/15（木）	56 名															
延べ	212 名															
市 評 価	<p>孤食であったり、夜遅くまで子どもだけで過ごさなければならぬような環境にある子どもたちの心と体を育み、子どもの健康づくり、ひいては地域との繋がりを目指す公益性の高い事業であると評価できる。</p> <p>今後は、大野台地区や大沼地区などでの活動の拡大に期待する。</p>															
備 考																